

1 開 会 14時00分

教育長から、「議題第2号」については、後日公表されるものであること、「議題第3号」「議題第4号」「議題第5号」「議題第6号」「議題第7号」については、人事に関するものであることから、非公開での審議が適当である旨の提案がなされ、出席者全員で異議なく決定した。

2 前回の会議録の承認

教育長から、令和4年度4月定例教育委員会の公開部分の会議録の承認について諮られ出席者全員で異議なく承認した。

3 議 事

◎ その他① 「県立高校生の就職内定状況について」

高校教育課長

(資料に沿って説明)

説明は以上です。

教育長

この件に関して、御意見御質問等ありませんか。

島原委員

これからアフターコロナで経済復興していく時期であるため、県外からの求人も増え、求人倍率も高まることが予想されます。その中で、県内に魅力ある企業があることをいかに訴えていくかが大事だと思います。これまでどおり取組は続けていただきたいです。こちらの資料のデータに関して、一概に産業系の学校と言っても様々な学科があり、それぞれ事情は異なると思います。そこを分析し、その業界や地域の企業と連携してより具体的な対策をとることも必要になるのではないかと思います。そのあたりはどのように考えていらっしゃるのでしょうか。

高校教育課長

各学科によって状況は異なると考えております。3月の状況ですと、就職の割合で最も多いのは水産学科 83.1%。工業が 64.4%、次に総合学科 57.5% 農業 54.1%と続きます。普通科につきましては当然ですが、4.1%と、各学科によっても就職希望者には差がある状況です。またその中でも、県内就職の面で考えますと、昨年は総合学科が 88%が県内、福祉が 80%、商業 77.2%、農業 75.5%など、県内を中心とした就職をしている学科がある一方、職種によりましては、例えば水産でございますと、県内は 37%というような状況になります。特に我々も意識しております工業高校は昨年 51%と、近年で初めて 50%を超えまして、昨年度より、4.1 ポイント上昇したということになります。

求人は、製造業等からの求めが非常に多い状況であります。卸売や小売業、中小企業からの求人も学校には来ています。

一方で実際に生徒の希望でいきますと、また違う職種を希望するような状況もござ

いますので、このマッチングについてももしっかり企業の魅力を伝えていくこと、そして、県内企業はどんな企業努力をされているかということを具体的に体験させていきながら、このメリットを伝えていきたいと思っております。

島原委員

同じ工業といっても宮崎の産業特性は地域によって違うと思います。例えば県北は工業が強い地域であります。そこでやっている取組を他の地域に紹介するなどしてよりきめ細かいマッチングを進めていただきたいと思います。

高校教育課長

今年から就職支援エリアコーディネーターを7名に増やしておりますので、今のような事例もネットワーク会議等で共有しながら進めていきたいと思っております。

高木委員

就職内定者の内定というのはもう決定と読み替えてよろしいですか。

高校教育課長

実は未定者の中に、内定はしたが配属先が決まっていないという生徒も含まれています。これにつきましては6月の調査で判明する予定です。

木村委員

コロナが収束傾向に向かっていますが、面接のオンライン・対面形式の傾向がわかれば教えていただけますか。

高校教育課長

一昨年度はオンライン形式を初めてとったことで、混乱とまではいかないものの戸惑いが見られました。昨年度は各学校によると、オンラインが数としては増加したと聞いています。企業努力で対面かオンラインか選択式にいただき、生徒のネット環境にもかなり大きく配慮していただいたおかげで、昨年は企業や学校からいろいろ情報を伺っても、混乱等は生じていない状況です。

柳委員

県内の就職内定率が上がっているのは喜ばしいですが、要因はコロナ禍、企業誘致キャリア教育などが考えられます。教育委員会としては上昇している要因はどのように分析されていますか。

高校教育課長

一番は平成28年から県内関係機関や労働局が学校と一緒に県内企業と学校をつなぐ取組を継続してきた結果であると考えています。コロナ禍で県外企業と直接マッチングができない状況の中でも、県内企業の情報については非常に細やかに学校に届けられています。特に就職支援エリアコーディネーターがいろいろなかたちで活躍して生徒がしっかり選択できる環境が整えられていることが一番大きな要因だと思っています。あわせてキャリア教育の取組も基盤となっています。さらには、先ほど

の就職支援エリアコーディネーターの方には、高校等で探究型の学習、地域との連携の学習の部分も、コーディネートをお願いするような取組もしておりますので、そのような部分も成果の要因になっていると分析しております。

島原委員

就職希望者に対して就職内定者の差の37名、この方々の現状と、これからどうされようとしているのかを教えてください。

高校教育課長

就職がこの時点で未定の方は、6月の追跡調査で詳細が判明する予定です。現在耳に入っている情報ですが、まず就職したが配属先が決まっていない生徒、この時点では4名いますが、現在は配属先が決まったと聞いております。他にも県外企業を希望していたもののコロナ禍でマッチングが難しく、来年度採用を待つと決断された生徒、就職から進学・留学に切り替えた生徒もいます。それから健康上の問題で就職も進学も叶わず、次に向けてまずは健康を取り戻そうとしている生徒もいます。これからもまたしっかり追跡して、また支援をしていきたいと思っています。

島原委員

現在企業は人がいなくて厳しい状況でして、専門が違っても採用の可能性がります。チャンスがあれば地元企業への紹介や、就職支援エリアコーディネーターからつなぐというの也被考られるのではないでしようか。産業界ではどうやって人を確保しようかと苦勞しているところだす。

高校教育課長

本当に大事な視点だと思ひます。企業の声をしっかり聞きながら、子どもたちに十分な情報提供と教育を果たしていきながら、企業と生徒をつなげていきたいと思ひておひります。

高木委員

企業と教育委員会が一生懸命取り組んで、成果が出ていることがあるかと思ひますが、企業からの声が伝わっていないところもあるのではという話がありました。県内企業と教育委員会で温度差があったり、よく伝わっていないことがあったりといったことはありますか。

高校教育課長

一番大事なのは連携をし、継続して取り組むことだと思ひます。就職支援エリアコーディネーターが今年から1名増えて7名となったことで、企業の声をきめ細かに聞きながら各地域でエリアネットワーク会議を開いています。そちらの方で具体的な企業の声を聞き、子供への細かな面談等をしながらマッチングできるよう取り組んでいるところだす。コロナ禍でインターンシップや企業見学が難しいところがありますが、オンラインの企画を企業が計画してくださったり、放課後学校に来て生徒と話すなどの取組をしてくださったりしています。そのような取組をしながら、企業の声も細かに拾っていくことを続けていきたいと思ひておひります。

教育長

情報発信という点で、非常に大事な御指摘をいただいたと思います。日向市の取組を、島原委員から御紹介いただけないでしょうか。

島原委員

先ほどから御紹介いただいている就職支援エリアコーディネーターがかなり動いてくださっています。県北の方ではもう十数年企業説明会を開催しておりまして、今年はリモートでの開催でしたが、県北エリアの3校の生徒へ22社が参加するものとなりました。4つの業態のグループに分かれてリモートで企業からの説明を聞くのですが、説明後の生徒からの質問も多く、活発な意見交換がなされており、アンケートも満足度が高いとの結果が出ています。自分が思っていたこと以上の話を聞いた、地元企業に対する考え方が変わった、などいろんなアンケート回答がみられました。付け加えると、県北では保護者への説明も必要であるとの考えより、PTA 総会や修学旅行説明会にあわせて約20社の企業が保護者に企業説明を行っています。

教育長

今年度も既に行っていたいただいています。情報発信しながら他地区との連携も考えながら取り組んでいただきたいと思います。

資料のとおり、3月末時点の就職内定人数が若干ですが下がっています。データを分析していただき、100%に近くなるよう改善していただけないかと思います。

教育長

よろしいですか。

では、この件については、これで終わります。

◎ 次回会議の日程等について

教育長

それでは、次回定例会は、6月27日、月曜日、14時からとなっておりますのでよろしくをお願いします。

これより後、会議冒頭の決議により非公開とします。

傍聴者の方は、御退席をお願いします。

暫時休憩とします。